

なつかしのメロディー—真木洋介ショー

茶釜の湯で来場者魅了

シャンソン歌手の真木洋介さんが8月23日、通所リハビリセンター「茶釜の湯」で、「なつかしのメロディー—真木洋介ショー」を開きました。会場には茶釜の湯のご利用者のほか、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」やデイサービスのご利用者、地域の方々も駆けつけて、なつかしの歌謡曲に耳を傾けていました。

真木さんは、歌手の菅原洋一さんの一番弟子で、シャンソンのほかにハワイアンや演歌、歌謡曲とレパートリーは幅広く、300曲以上の歌詞を覚えているといいます。

今回は、昭和の歌謡曲を中心に、「ふるさとのはなしをしよう」からショーがスタート。「喜びも悲しみも幾年月」や真木さんの出身地、広島にちなみ、原爆の悲惨さを歌った「一本の鉛筆」などの曲を次々に披露。会場は手拍子を打ったり、一緒に曲を口ずさんだりして楽しんでいました。

タイで大ヒットした曲を日本語に訳した「サバイ・サバイ」や「愛の迷路」などを披露した後、「春のうららの隅田川」(花)で始まり、「故郷・ふるさと」「夏の思い出」などの懐かしい曲をメロディーで歌い、観客の中に入ってマイクを差し出し、観客とともに熱唱していました。師匠、菅原洋一の「忘れな草をあなたに」を披露した後、「イヨマンテの夜」を最後にショーを締めくくり、会場からのアンコールにこたえて、菅原洋一の「知りたくないの」を熱唱、会場から大きな拍手が鳴り響きました。最後にご利用者から花束を受け取り、ショーを締めくくりました。

2019年8月30日

